

IRW 活動ガイドラインー 3a : 手作りロケット機体点検要領

文責 ; IRW メンバー白子 (04/06/18→改 11/11/14)

タイトル :

手作りロケット (火薬) 工作教室でのロケット機体チェックの要領 (ポイント)

記事内容 :

大勢の子ども達や家族が参加する工作教室では、安全を第一に素晴らしい飛翔で (高度やパラシュートの開傘) 一杯の感動を味わって貰うために製作中のアドバイスは勿論、完成後の機体チェックや射点での最終チェックが重要です。以下に、今までの工作教室等での経験や教訓をまとめた機体チェックの要領 (ポイント) を列記します。

<機体チェック要領 (ポイント) >・・・所要時間 : 1機当たり 30～60秒程度

- 1) 計測 : 重量、機体全長 (先端から尾翼端まで)、重心位置 (先端から)
 - ・計測結果は飛翔結果 (高度、飛び方) と対比し、その後の製作要領に反映
- 2) 形状 : 機体の強度 (ルーズ巻きでエンジンマウントが抜けないか)、機軸出しは、尾翼取り付け (配置、ねじれ、接着強度) ← **先尾翼は厳禁**
- 3) ノーズコーン抜け具合 : ショックコードを通して抜けやすいこと
- 4) エンジン : 挿入方向 (逆挿入に注意)、エンジンマウントとのセロテープ固定
- 5) ランチラグ : ストロー位置が重心点で尾翼の間でセロテープの固定で潰れたり曲がっていないか
- 6) パラシュート : ショックコード固定は堅固か、パラシュートとショックコードの結び (大凡中間点) はしっかりか、絵を描いた塗料で付着していないか
- 7) 機体チェックで修正指摘した機体は再チェックする事

↑機体チェックは製作指導者と機体検査者のダブルチェックを原則とします

8) 製作上がり集中のため、同時製作 30機当たり 1名の検査員配置が適当尚、機体に絵を描いたデザインや機体製作のアイデアも審査し楽しむこともあります。



工作教室での機体チェック風景の例

参考 ; IRW-HP <http://home.s02.itscom.net/sscnote/irw.html>